

協 同

〔特集〕 組合員とJAとの結びつきを強めよう!
～JA組織基盤強化に向けたJAくらしの活動の実践について～

2022
December
KYODO

12



兵庫の農業人
hyogo-nougyoujin

タッグ! 兵庫の農業人

60年以上続く
「清水いちご」の伝統を守る

Farmer × JA staff
橋本 竜介さん
平川 冬木さん
詳細は
裏表紙へ

兵庫の農業人

生産者の皆さんとタッグを組んだ
多様な営農活動を紹介します。

タッグの様子は動画でも配信中! ▶

▶ YouTube で 兵庫の農業・農協発信ch 検索



今月は **JA兵庫南**

60年以上続く

「清水いちご」の伝統を守る

清水いちごの生育状況について話す橋本さん(左)と平川さん



生産者

清水いちご生産者
清水いちご出荷組合長
橋本農園 代表取締役
橋本 竜介さん

アルバイト感覚で農業を始めましたが、いつの間にかイチゴ栽培のとりこになり、今年で24年になります。これからもおいしいイチゴを生産し、たくさんの人を笑顔にしたいです!



JA職員

JA兵庫南
明石播磨営農経済センター
営農渉外
平川 冬木さん

JAの直売所だけでなく、今後はサービスエリアやインターネットで発売できるよう尽力します!また、土壌分析や花芽検鏡等の取組みを通して、清水いちごの伝統とJA兵庫南の地区の農業を守り続けていきます!



明石市魚住町清水地区で栽培される「清水いちご」は、一般的に春が収穫期のイチゴを、ハウスで温度調整季節を錯覚させることにより、12月から5月まで栽培・収穫している。ほ場で完熟させてから収穫し、一番おいしいタイミングで消費者に届けるため、遠方への出荷はできず、JAの直売所を中心に出荷されることから「幻のイチゴ」と呼ばれる。

清水いちご生産者5人で構成される清水いちご出荷組合の組合長を務める橋本竜介さんは、24年前に祖父の経営を引き継いだ。現在は2万5千株のイチゴを栽培し、同JA直売所に出荷する。

橋本さんは、土耕栽培と呼ばれる、伝統的な方法で生産している。「土耕栽培は、作業姿勢が低く、労力が大きい。気象条件にも左右されやすく管理が難しい。しかし、土から豊富な栄養分を吸収するため、甘味が深いイチゴが生産できる」と橋本さんは話す。

JA兵庫南明石播磨営農経済センターの平川冬木さんは、肥料会社と協力し、イチゴ栽培に必要な栄養素を土壌分析によって調査し、適切な肥料の提案を行っている。橋本

さんは平川さんに対し、「農薬や肥料価格が高騰している中、土壌分析の結果から必要な肥料を提案してくれて、非常に助かっている」と話す。

また、平川さんはイチゴ苗根元の花芽形成を顕微鏡で確認する花芽検鏡を行い、花芽の分化の状態を確認して、適切な定植・収穫時期を判断し、収穫量を確保できるよう支援する。

今後も、JA兵庫南は清水いちごの伝統とブランドを守り、「おいしい」といわれるイチゴを提供し続けるため、土壌分析や花芽検鏡等に取り組み、適切な営農指導を行う。

JA兵庫南の清水いちごの伝統を守るための取組み

JA兵庫南は、
**清水いちごのブランドを守り続けるため、
土壌分析や花芽検鏡などの取組みを進める。**